

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1472301066
法人名	オセアンケアワーク株式会社
事業所名	ハーティオセアン小田原
訪問調査日	平成22年12月9日
評価確定日	平成23年1月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472301066	事業の開始年月日	平成17年9月1日
		指定年月日	平成17年9月1日
法人名	オセアンケアワーク株式会社		
事業所名	ハーティオセアン小田原		
所在地	(250-0217) 神奈川県小田原市別堀85		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成22年11月29日	評価結果 市町村受理日	平成23年2月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が開所して6年目に入っています。
近頃は近隣の方との交流をめざし、イベント昼食会などに声掛けし、少しずつ参加される方が増えています。
また、在宅療養支援診療所との連携により入居者の急変時にも対応できるようになりました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成22年12月9日	評価機関 評価決定日	平成23年1月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

■JR国府津駅からバスで10分、最寄停留所から徒歩7分の住宅街の中、隣に梅林とレンタル菜園があり季節の野菜が作られ、晴れた日には富士山が勇姿を見せる静かな環境にグループホームハーティオセアンがある。
■ホームの外観は一般的な大型住宅であるが、内部は1Fに玄関ホール、エレベーター、事務室、キッチン、リビングルーム、車椅子対応共用トイレ、各室にトイレ、洗面台、クローゼット、クーラーが備わった4部屋、2Fは同作りの5部屋で構成されている。
■施設長はホームが地域に根ざして愛される存在と成り、初めて理念の「家族みんなで生きる楽しみ、喜びを探し続ける」事の実現に繋がるとの信念から、地域行事への参加は基より入居者の日々の散歩を通じての地域の方々との声かけ挨拶、更には事業所が「夏祭り」「クリスマス会」「誕生日会&食事会」等イベントを企画し、近所の方々を招く事で、地域への溶け込みを行っている。
■1ユニット9人構成であるが故の特色に、全職員が入居者を人生の先輩としての敬い、父親、お爺さん、母親、お婆さんとした敬愛で、入居者と職員が家族としての一体感を作り上げ、まとまっている。
■ホームでは重度化、終末期ケアに当たったの対応指針を作っていて、また体験もしている。一人ひとりが思い出を語るに、今も涙していて、看取りの尊厳を認識している。「本人が望む場所で自分らしく最後まで暮らせる」事の実現がハーティオセアン小田原の心と、施設長を始め全職員で思いを共有している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ハーティオセアン小田原
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に全職員で作った「その人らしく、自分らしく」の理念を日々業務の中で考えながら、カンファレンス等で話し合い共有している。	「一人ひとりの個性を尊重し、その人らしく、自分らしく生活を育めるよう家族みんなで相談していきます。家族みんなで生きる楽しみ、喜びを探し続けます。」と謳われてた理念は、ホーム開設時に現管理者と職員によって作られたもので、日常会話や業務の中で話題にし、カンファレンスで確認共有して介護に活かしている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、事業所のイベントには、ご近所の方にパンフレットを配布するなどの対応を行い、少しずつ参加して下さる家族が増えている。	自治会に加入して、地域イベントの「祭り」や「どんど焼き」等に入居者と職員が参加し、又事業所の主催による「夏祭り」「クリスマス会」更には誕生日会と称しての「食事会」等には近所の方々にも案内し、参加を得て交流が行なわれている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の行事に参加したり、事業所の行事に自治会、ご近所の方に参加して頂き、認知症の方の介助方法など体験して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、自治会、地域包括支援センターの方に参加して頂き、助言をもらったり、質問事項を投げかけ、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は年3回の予定で、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、法人の部長、管理者の出席の下、事業所の現況、行事予定報告、その他 災害時協力要請などを行なって、質問や意見を頂き実施している。結果は議事録に留め、参加できなかった職員にも回覧で報告をしている。但し、毎回、地域役職者との日程調整が難しく今後は、ご近所の方等で構成した会議を包括に相談して検討している。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談や疑問などある時は、市や地域包括支援センターに相談している。 また、介護保険更新時には、本人と一緒に申請に行ったり、職員も研修等に積極的に参加している。	相談や疑問等がある時は、市や地域包括支援センターに相談している。また、介護保険更新時には、本人と一緒に申請に行き窓口担当者とは交流している。また、研修等の案内も頂き、職員が参加している。更に市主催の「和気あいの会」で異業種交流に参加し関係を築いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、早朝、夜間帯の防犯上必要な時間に行っている。 カンファレンス等で定期的に取り上げて話し合っている。	身体拘束のデメリットについてカンファレンス等で管理者から定期的に話題にし、職員間で取り上げ話し合っていて、全職員が理解している。ホームでは方針に従って拘束は一切していない。玄関の施錠についても日中は施錠せず解放している。但し早朝、夜間帯は防犯上、必要な時間のみ家族の了解を得て施錠している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、毎月のカンファレンスの議題に取り入れ、職員間で話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して定期的カンファレンスの議題に取り上げている。 家族の方にも必要に応じて話をすることもあ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居予定者は契約前に十分な説明と体験入居を取り入れ、納得されてから本契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議に参加して頂き、家族からの意見を運営に反映したり、重要事項説明書に、市の窓口や国保連の電話番号を記載している。	家族の面会来訪時に職員や管理者から声をかけ、入居者の生活状況報告を行い、合わせて意見要望などを聴いている。また、家族会や運営推進会議の参加で意見を聴き、見当の上可能な物はフィードバックと共に運営に反映している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス時の意見や提案を取り入れ運営に反映させている。 更に日常の業務の中で個々の職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	日常の業務の中で個々の職員の意見や提案を聞く機会を設け更に、月1回のカンファレンス時の意見や提案を取り入れ、運営に反映させている。また、管理者は職員が気軽に話せる雰囲気や場造りを心がけ、職場を離れての付き合いなども行い意思疎通を図っている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得支援を行ったり、資格による給与面での接遇に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会の情報を掲示し、職員の力量に合わせた研修への参加を奨めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会での意見交換や合同での研修会の参加を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は本人、家族の要望を含め話を聞き、本人との信頼関係がとれ安心して生活が送れるよう職員全員で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族のニーズを把握して、共同生活として成り立つ範囲で希望や意向を取り入れている。 入居してからも相互理解に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や体験入居を取り入れ、グループホームでの生活が適しているか評価し、希望、要望を聞いて話し合い、場合によっては、他のサービス利用を勧めることもある。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、職員共に家族の一員として話をしている。 時には職員が助言を頂くことも多々ある。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活を写真や手紙に書いて報告したり、行事や外出時にも家族が参加され一緒に支えていく関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力にて外出したり、知人に気兼ねなくホームに来て頂いたりしている。	日々の会話の中から馴染みの人との関係や嘗ての思い出の場所等を聴き取り、又生活暦や家族の話からも関係を聞いて、時には家族の協力も得て思い出の場所へ出かけたり、知人との面会など支援をしている。友人など訪ねて来る人には気兼ねなくホームに来て頂いたりしている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間は共有スペースにて過ごされる事が多く、皆で楽しく過ごせる様に努めている。 食事のときなどは性格や相性などを配慮して席を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くに来られた時は、ホームに立ち寄られ、近況など話をする機会やホームの行事などにも声掛けしている。 また、他の施設に移られた方を家族の了解を得て職員が訪ねることもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や様子などで、本人がどのような事を思い、希望されているかを汲み取るように努めている。	思いや意向の把握は日常の会話の中から聴いている。又会話が困難な方には、寄り添うことで表情や仕草から意向や思いを受け止め、家族からも確認し、本人がどのような事を思い、希望しているかを汲み取るように努めている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から話を聞いたり、本人の日々の話の中から把握に努めている。 ホームに面会に来られた知人からも情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌、業務日誌の記入と申し送り等で、一人ひとりの変化を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を反映できるように、定期的にケアプラン会議を行い、職員の意見を聞き作成している。	日々の介護観察記録を下に、本人・家族・職員等の意見を取り入れて計画作成者を中心とし、カンファレンスで検討し、現状に即した計画を立てて、出来上がった介護計画は、本人・家族に確認して頂き実践に繋げている。またモニタリングを計画的に行い、計画とのズレが生じないように努めている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌、業務日誌にいつもと違う状況や気づいた事を記入している。 時には本人の言った言葉をそのまま記入してケアプランの見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いなど、出来る範囲でその時のニーズに対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人のニーズに合わせ、近くの畑に野菜を収穫に行ったり、公民館の文化祭に出席したりしている。 また、ボランティアの方とのふれあいで楽しむことができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携クリニックの往診があるが、家族の希望により、他の医療機関の受診を行っている。	入居時にかかりつけ医の有無とその継続診療の希望を確認している。現在、入居者全員が提携医みつぼしクリニックによる受診で、月2回の定期往診の他、現症状のファックス連絡による応急対応指示と、往診で、24時間対応を備えた適切な医療受診の支援が行われている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診時に体調の変化を記録して伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と連絡を取り、医師との病状説明に同行させて頂いたり、医療連携室の相談員と連絡して入院中の状況を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会等で終末期の過ごし方を話し合ったり、参加できなかった家族には、個々に終末期プランを渡し説明している。	病状の重度化や、加齢により衰弱し人生の終末期の状態であっても、本人の望む場所で自分らしく最後まで暮らして行くことが出来る様に、医療機関との協力、本人の意思、家族の意向を最大限に尊重して対応していく。とした方針を、全職員で共有している。また、ご家族にも説明をしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やカンファレンスにて勉強したり、提携クリニックの医師や看護師から指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を地域の方と行っている。また、地域の消防用の方とも連絡をとっている。運営推進会議で災害時の対応を話し合っている。	重要事項10条、運営規定15条に火災、その他、自然災害に対処すべく防災計画の策定と定期的な避難訓練の実施を謳い、年2回以上夜間及び昼間の想定で入居者を含めた避難訓練実施を行うとして、平成22年12月までに2回の避難訓練が実施されている。また非常食、及び防災備品も備蓄されている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や状況に合わせ声掛けを行っている。 言葉遣いはお互い注意したり、声掛けする場所なども考えている。	入居者を人生の先輩として敬い、親しみと家庭的な雰囲気の中にも誇りやプライバシーを損ねることの無い言葉遣いと態度を心がけている。 トイレ誘導時にも周りの人に気付かれない声掛けと、戸閉めの気配りを行い、また排泄の失敗時の下着取替えについてもさり気なく行って支援している。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの表情などから希望を汲み取り、また思いを伝えやすいような状況を作り、自己決定できるよう働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の話しを聞き、体調に合わせて、その日の状態に沿うよう活動を促すようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、服を選んで頂いたり、朝々の身だしなみや、スキンケアも一緒に行うようにしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの性格や状況に合わせ声掛けを行っている。 言葉遣いはお互い注意したり、声掛けする場所なども考えている。	調理の下ごしらえ、配膳、下膳、食器拭きなど、出来る人に出来ることを手伝って頂き、調理法も刻み、柔らかか目等、その人に合わせ、食事中は職員と談笑を交えてその人のペースで楽しみながら行われている事が調査時の食事同席で確認出来た。時には、外食等も取り入れ楽しめる食事支援が行われている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたメニューで、一人ひとりに合った形態で食事、水分を確保できるよう支援している。摂取量は記録し、少ない方には捕食にて補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛けにて歯磨きをしている。義歯の方には毎日夕食後消毒をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録して一人ひとりに合わせた排泄の対応に努めている。 本人の希望や状態の変化等を考慮し、なるべくトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表を記録しながら、ひとり一人の排泄パターンを全職員で把握し、個々に合った声かけ・見守りを行い、トイレでの排泄自立に向けて支援している。現在夜間も昼間と同様の支援を行っている。転倒防止等の見守りの他は特別な対応は行っていない。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量を工夫して排便できる様に心がけている。個々の排泄パターンを把握して、何日か排便が無い時は、マッサージや温めたり、乳製品を多く摂取したりして対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の意向に考慮して、プライバシーを配慮しながら入浴できるようにしている。 時間帯は概ね決まっているが、失禁の時などは考慮して入浴するときもある。	利用者個々の希望を聴き柔軟に対応している。入浴が清潔保持のみならず、身体観察からの健康維持の効用を踏まえて、入浴を嫌がる入居者にも時間や人を変えて声かけで促し無理強いのことなく支援している。また、季節のゆず湯、菖蒲湯なども取り入れて楽しみの工夫もある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の希望や状態でベッドやソファにて休んで頂いている。 夜間は照明や寝具に工夫して安眠できるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方を把握して、服薬が変わったときは、医師、薬剤師の説明を受け、その後の状態変化に細心の注意をはらっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前、行っていた仕事や趣味、好きな事を理解して、その方に合ったことを行っている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	個人の希望や意見を聞き、家族の方や地域の方に声を掛けて協力して頂いている。	天気の良い日は利用者の健康状態のチェックと希望を聞いて、ホーム近くの散歩コースを初め、時には買い物なども交えて対応している。また法人の大型車両を借りて、小田原へのドライブや温泉つきホームハーティオセアン強羅へ、車椅子の方も交えて全員で出かけている。	今後の継続	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人差はあるが、本人がお金を所持している方もあり、希望があれば買い物に行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠く面会にあまり来られない方には、電話や手紙で意思疎通を図っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、月ごとに入居者と職員と作ったカレンダーや行事のときの写真を貼り、季節感を味わっている。	廊下、階段、風呂、トイレ等行き届いた清掃で、騒音、異臭なども無く、居間兼食堂の大きなガラス戸からの採光も良く明るい。居間には、テーブルの他ソファも置かれ、壁面には入居者のスナップ写真や手作りのカレンダーの他、職員が描いた全入居者の似顔絵等が張られ、寛げる雰囲気の中、更にクリスマスツリーなどで季節感を醸す工夫がされている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースのソファや椅子の配置を考えたり、個々に合った居場所が提供できる様に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、馴染みの家具やソファ等を置き快適に過ごせるようにしている。また、居室の飾り物も本人と一緒に配置したりしている。	各部屋に洗面台、トイレ、クローゼットが設置されていて、各人の部屋で手洗い、用足し、身づくりが出来る。更に入居時に本人にとって馴染みの深い親しみの品物をお持ち下さいと説明し、各部屋には夫々の馴染みの筆筒や、鏡台、家族写真、ぬいぐるみ、等で夫々思いの設えて自分の部屋が工夫されている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人に合わせ居室への移動をエレベーターや階段にしたり、自分の居室のわからない方には、目印や大きく名前を書いたりしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

ハーティオセアン小田原

作成日

平成22年12月9日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
		地域に根差した活動が不足	グループホームを通して地域の住民の方に認知症について、理解を深める支援が出来るようにする。	地域の方にホームに来て頂けるようなイベントや集まりの場を提供し認知症について理解していただく機械を作る。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。